

5. 点検・整備



警告

- マフラーやリコイルカバーなどエンジン周辺に堆積した刈草などは、エンジンを停止してから速やかに取り除いてください。

火災の原因となります。



注意

- 作業終了後は平坦な場所でエンジンを停止し、製品が冷えてから清掃してください。

事故や火傷の恐れがあります。

- カバーを外して清掃を行った場合には、確実にカバーを固定してください。
- 点検・整備する際には、エンジン停止、スタータスイッチを「切」にして行ってください。

けがを負う恐れがあります。

重要

- 製品を洗浄する際には、デッキ内のみ行ってください。エンジンや電気部品、配線等に直接水をかけないでください。

故障の原因となります。

- 製品が正常に機能して、安全にご使用いただくために、定期的に点検整備をしてください。エンジンはエンジンの取扱説明書も参照して点検整備をしてください。
- 毎月、毎年、点検・整備をした日を記録してください。
- 点検・整備には、専門的な知識が必要です。ご自分で点検整備ができない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
- 販売店にご相談するときは製品の状況と合わせて「型式名」、「製造番号」をお知らせください。
- 1年に1回以上は、お買い求めの販売店に定期点検を依頼してください。
- オイル交換後の廃液は家庭用ゴミと異なり産業廃棄物に該当します。みだりに廃棄すると、法律により罰せられます。専門の廃棄物処理業者で処理してください。

5. 点検・整備

5-1. 日常点検・定期点検

ご使用者の皆さまが、この製品の性能を十分に発揮し、安全な作業をしていただけるように、日常の点検を次のようにまとめましたのでご活用ください。なお点検作業の際は、一部の作業を除き必ずエンジンを停止してください。

表 1 日常点検作業表

	点検箇所	点検作業			摘要
		運転前	運転中	運転後	
エンジン系統	エンジン周辺	○	○	○	ゴミや刈草などがいないか確認（適時清掃）
	エンジンの始動性	○			始動が容易にできるか確認
	エンジンの運転状態		○		排気色、排気臭、エンジン音、振動の確認
	燃料	○			残量、キャップの締付、漏れの確認
	エンジンオイル	○			規定量、汚れ、漏れの確認
走行系統	電磁ブレーキの効き具合	○	○		クローラがロックするか確認 ひきずりなどが無いか確認
	クローラーの状態	○			亀裂、損傷および偏摩耗の有無を確認 異常な緩みなどがいないか確認
刈取系統	飛散防止カバー	○		○	変形、亀裂、腐食などがいないか確認
	刈刃	○			割れ、変形、異常摩耗などがいないか確認
	刈刃取付部品	○			緩み、脱落、異常摩耗などがいないか確認
	デッキ	○		○	刈草や土などの堆積がないか確認
電気系統	スタータスイッチ	○			エンジン始動・停止ができるか確認
	エンジン停止スイッチ	○			エンジン停止ができるか確認
	ランプ類	○	○		各ランプが点灯するか確認
	12 V 鉛バッテリー	○			ターミナルのゆるみ、汚損の点検
	50 V リチウムバッテリー	○			確実に取り付けられているか確認
	送信機（プロポ）	○	○		正しく操作できるか確認
その他	前日の運行において異常を認められた箇所	○	○		異常を認めた箇所が完全に修理されているかを確認
	フロントカバー	○		○	ゴミや刈草などがいないか確認
	各カバー	○			確実に取り付けられているか確認

5. 点検・整備

◆ 定期点検・調整について

定期点検や整備を農閑期にすると、農繁期には車両の性能が十分発揮され、安全で快適な作業ができます。車両の整備不良による事故などを未然に防止するために、1 シーズン毎に整備工場にて定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

表 2 定期点検作業表

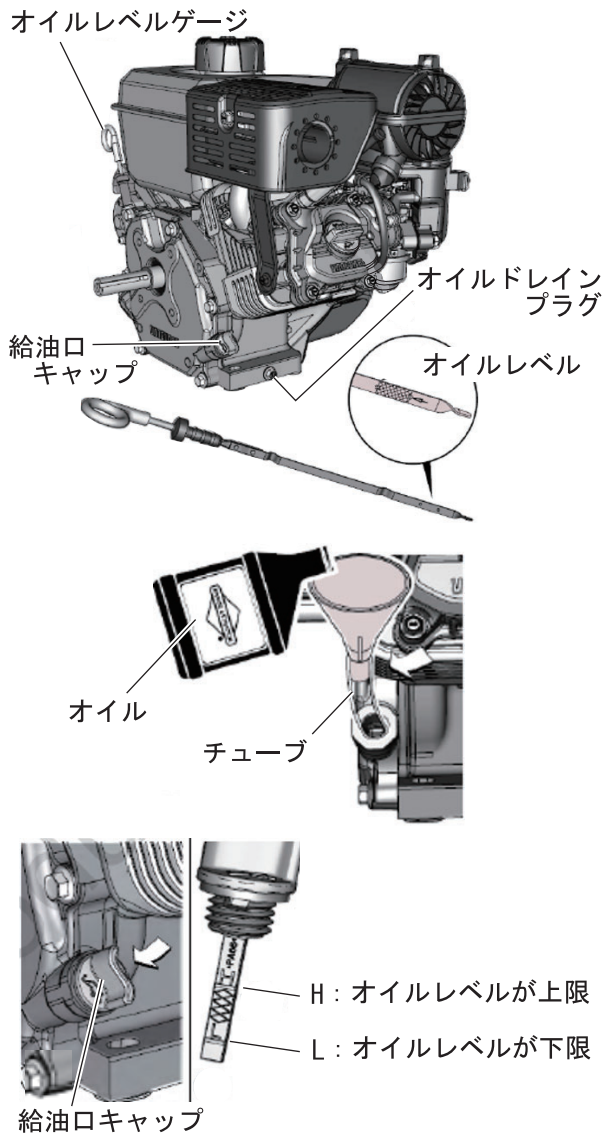
点検箇所	処置	作業頻度	備考
エンジン周辺	点検・清掃	8 時間毎 (毎日) ※1	P29
エンジンオイル	点検	8 時間毎 (毎日)	エンジン取扱説明 書参照
	交換	初回 20 時間 2 回目以降 200 時間毎あるいは年 1 回	
エアクリナー	点検	8 時間毎 (毎日)	
	清掃	200 時間毎あるいは年 1 回 ※1	
	交換	600 時間毎あるいは 3 年毎 ※1	
燃料ホース	点検・交換	年 1 回または漏れ等の確認時	
燃料タンク	点検・清掃	25 時間毎	
フィルタ・キャップ	交換	目詰まり・漏れ等の確認時	
スパークプラグ	交換	年 1 回	P30
冷却フィン	分解・清掃	年 1 回	
クローラー	点検	8 時間毎 (毎日)	
	調整	200 時間毎あるいは年 1 回 ※1	
	交換	400 時間毎あるいは 2 年毎 ※1	
走行モーター減速機オイル	交換	200 時間毎あるいは年 1 回 ※1	P30
プロペラシャフト グリース	交換	50 時間毎	P31
刈刃	点検	8 時間毎 (毎日)	P31
	交換	50 時間毎 ※1	
刈刃固定 ボルト・ナット	点検	8 時間毎 (毎日)	
	交換	50 時間毎 ※1	
刈刃ガイドバー	点検 交換	8 時間毎 (毎日) 変形、偏摩耗、破損時	P31
飛散防止カバー	点検・清掃 交換	8 時間毎 (毎日) 変形、亀裂、腐食時	
デッキ	点検・清掃	8 時間毎 (毎日)	
	交換	変形、破損時	
フロントカバー	点検	8 時間毎 (毎日)	P31
スクリーン	清掃	50 時間毎 ※1	
12 V 鉛バッテリー	点検・清掃	50 時間毎	P32
ヒューズ	点検・交換	ランプ類が点灯しない時	P33
電気配線	点検	年 1 回	P33

※1：使用状況によって変化しますので目安としてください。

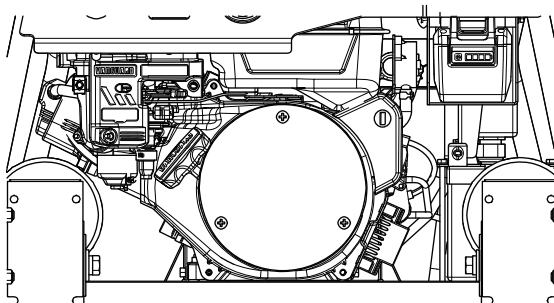
5. 点検・整備

5-2. 各部の点検

■潤滑系統の点検



■エンジン周辺



エンジンオイルの交換

(18 ページの「推奨オイル」を参照)

重要

○ エンジンの取扱説明書に従いオイルを補給・交換してから、運転をはじめてください。

オイルが入っていない状態でエンジンを始動させると修理不可能な損傷を引き起こし、保障の対象外となります。

注意

○ 正規面より多く入れるとオイルが吹き出ることがあります。

1. 製品を水平な場所においてください
2. 給油口キャップ、オールドレインプラグを外し、オイルを耐熱耐油容器に排出してください。
3. エンジンの取扱説明書を参照し、必要に応じてクランクケースにオイルを規定レベル内まで補給してください。
4. キャップ類をしっかり締めますが、締めすぎないように注意してください。
5. エンジンをかけ、1 分間動かしてください。エンジンが動いてる間に、オイルの漏れがないか点検してください。

重要

○ エンジンのオイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

○ 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝等に捨てないで下さい。

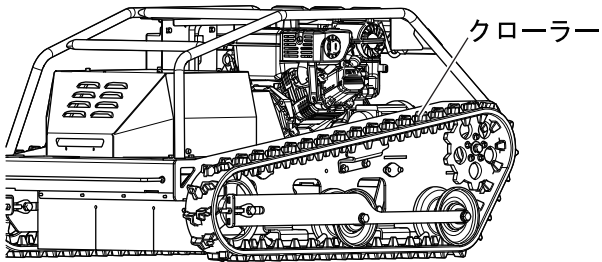
処理は購入した販売店にご相談ください。

エンジン周辺

- ◆ マフラーやリコイルカバーに付着した刈草やゴミ等を清掃してください。

5. 点検・整備

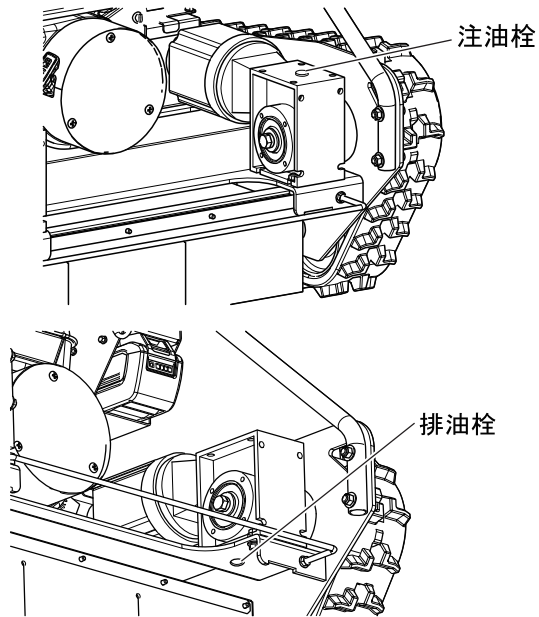
■ クローラ



クローラー

- ◆ 亀裂、損傷および偏摩耗の有無、異常な緩みなどがなければ確認してください。
- ◆ 調整や交換が必要な場合は、販売店に依頼してください。

■ 走行モーター減速機オイル



走行モーター減速機オイル

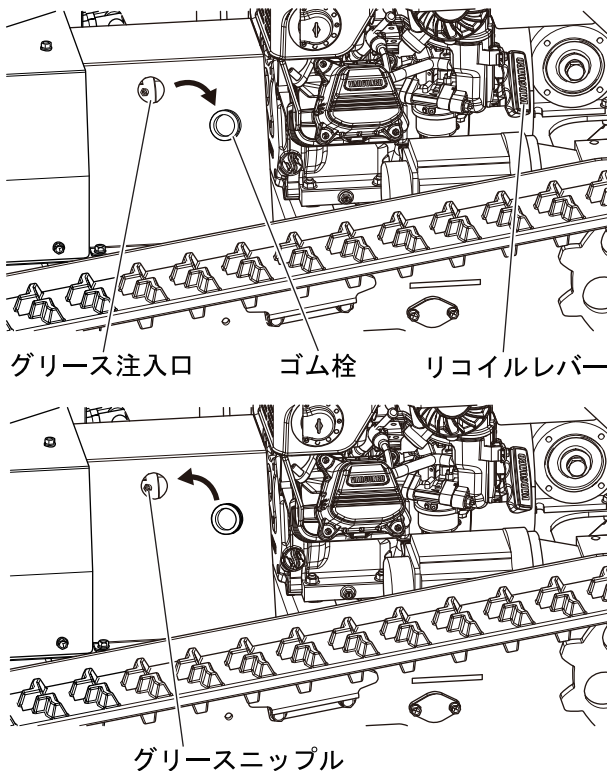
- ◆ オイル交換が必要な場合は販売店に依頼してください。

- ◆ オイル交換作業は下記、手順に従って行ってください。

1. 適当なオイル受けを準備します。
2. 注油栓を外します。
3. 排油栓を取り外し、オイルを抜きます。
4. オイルが抜けたら排油栓を締めます。
5. 注油口からオイルを入れます。
種類：ギヤオイル #90
油量：0.22 L
6. 注油栓を締めます。

5. 点検・整備

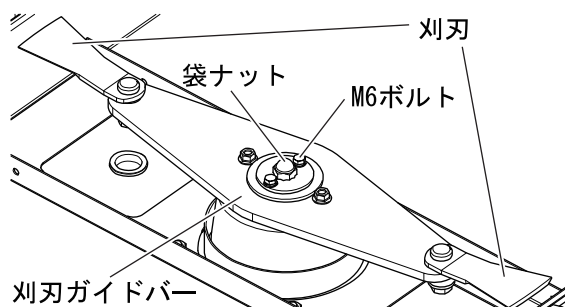
■プロペラシャフト グリース



プロペラシャフト グリース

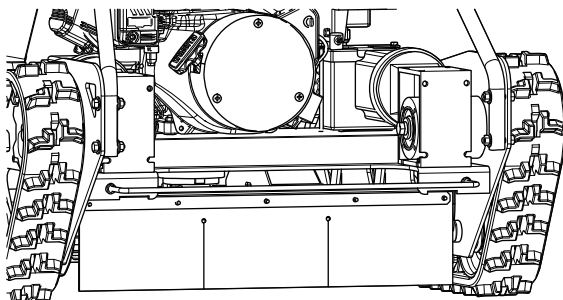
- ◆ グリース注入作業は下記手順に従って行ってください。
- 1. エンジンとフロントカバーの間にあるプロペラシャフトカバーのゴム栓を取り外してください。
- 2. グリース注入口からグリースニップルが見えるようにプロペラシャフトを回転させてください。
プロペラシャフトはエンジンのリコイルレバーを引くと回転します。
- 3. グリースガンで指定のグリースを注入してください。
種類：エピノック AP(N) No.2
または相当品
注入量：2.5 mL
- 4. 注入後はゴム栓で注入口に蓋をしてください。

■刈刃、刈刃固定ボルト・ナット、刈刃ガイドバー



- ◆ 割れ、変形、緩み、異常摩耗などがいないか確認してください。
- ◆ 緩みが発見された際は、増し締めではなく、交換になりますので販売店へご連絡ください。
- ◆ 刈刃等の交換作業は適切な工具と整備技術が必要となります。
- ◆ 交換が必要な場合は、販売店に依頼してください。

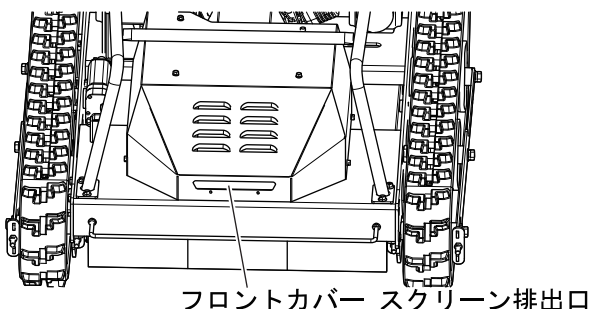
■飛散防止カバー、デッキ



飛散防止カバー、デッキ

- ◆ 草刈作業後、飛散防止カバーおよびデッキを清掃してください。
- ◆ 清掃後、変形・破損等が無いか確認し、異常があれば交換してください。
- ◆ 交換作業は、販売店に依頼してください。

■フロントカバー スクリーン



フロントカバー スクリーン

- ◆ 草刈作業後、フロントカバー スクリーンに刈草やゴミ等が付着していないか確認してください。
- ◆ 付着していた場合には、排出口からエアブローあるいはブラシを入れて取り除いてください。

5. 点検・整備

■ 12 V 鉛バッテリー

危険

- バッテリーを取り扱うときは、バッテリー液、火気などに十分に注意してください。
- バッテリーの上またはバッテリーカバーの上には、物を置かないでください。

火災や、火傷を負うことになり、失明することもあります。

- バッテリーのコードは、押さえ金具などの金属部分に近づけないようにして、接触（ショート）しないように確実に固定してください。
- 充電器で充電するときは必ずバッテリーのターミナルを外してください。

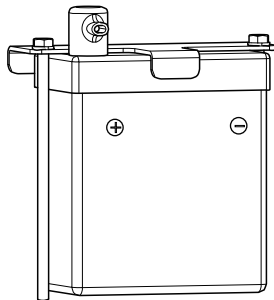
バッテリーが破裂（爆発）することになります。



警告

- 充電するときは、換気をして、タバコなどの火気を近づけないでください。
- 車両にバッテリーを載せたまま充電するときは、エンジンを停止して、電源を必要とするスイッチを切り、－側のターミナルを外してください。
- 充電器のスイッチを切ってから、充電クリップを接続したり、取り外したりしてください。
- 充電中にバッテリーテストを使用しないでください。
- バッテリー液を扱うときは、ゴム手袋、保護めがねをしてください。
- バッテリー液に触れたりバッテリー液が目に入った場合は、すぐに水で洗い流し医師に相談してください。
- 使用済みバッテリーの処理は、購入した販売店に依頼してください。

火災、火傷、失明の原因となります。



12 V 鉛バッテリー

点検 …

- ◆ バッテリー液量は液面がレベルラインの上限・下限の間にあるか確認し、減っていればバッテリー補充液を上限まで補給してください。（メンテナンスフリーのバッテリーは、補充の必要がありません）

清掃 …

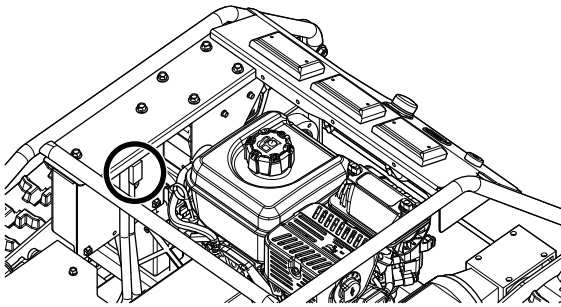
- ◆ バッテリーの上面と側面またはターミナルが汚れていたら、水またはぬるま湯で清掃してください。ターミナルには、さびを防ぐため、ワセリンかグリースを薄く塗ってください。

交換 …

1. バッテリー固定具を取り外してください。
2. バッテリー端子の－側を取り外し、次に＋側を取り外してください。
3. 指定のバッテリー YTX7L-BS と交換してください。
4. バッテリー端子の＋側を先に取り付けて、次に－側を取り付けてください。
5. バッテリー固定具を取り付けてください。

5. 点検・整備

■ ヒューズ



ヒューズ

点検・交換 …

- ◆ 配線の回路に異常が生じたとき、事故を未然に防止するためにヒューズが設けてあります。運転中、電気系統に異常が生じたときは、ヒューズが切れていないかチェックしてください。
- ◆ スタータスイッチを「切」にしてから、ヒューズボックスのふたを外してヒューズを点検してください。
- ◆ ヒューズが溶断しているときは、原因を調べ修理後、指定容量のヒューズと交換してください。
- ◆ 点検・交換後は、元通りにヒューズボックスふたを取り付けてください。
- ◆ 再びヒューズが溶断するときは販売店にご相談ください。



警告

○ 指定容量と異なる容量のヒューズや、針金、銀紙などを指定容量のヒューズのかわりに使用しないでください。

火災の原因となります。

■ 電気配線

電気配線

- ◆ 配線端子部の「ゆるみ」や「接続不良」、配線の「損傷」は電気部品のパフォーマンスを損なうだけでなく、「ショート（短絡）」の原因となります。配線が傷んだ場合は、販売店に連絡し、交換・修理をしてください。



警告

○ 電気配線を点検するときは、スタータスイッチを「切」にし、バッテリーコードの（－）端子を外してください。

5. 点検・整備

5-3. 故障対策

■エンジン始動時

エンジン始動時

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
スタータスイッチを回しても、セルが回らない	バッテリー端子の外れ、ゆるみ、腐食	端子部を清掃して確実に締付ける	P32
	バッテリーが放電している	充電または交換する	P32
	ヒューズが切れている	配線を確認してヒューズ交換する	P33
セルは回るがエンジンが始動しない	燃料タンクに燃料がない	燃料を補給する	P19
	始動操作が誤っている	正しい手順で始動操作する	P22
	エンジンオイル不足	規定量まで補充する	－
	エアクリナーの目詰まり	清掃または交換する	－
	点火プラグの不調	清掃または交換する	－
	キャブレターの不調	販売店に連絡	－
エンジン始動後自然に停止する	チョークレバーが閉じたまま	チョークレバーを開く	P22
	エアクリナーの目詰まり	清掃または交換する	－
	燃料に水が混入している	燃料を抜き取る	－
白煙が出る	エンジンオイルの入れすぎ	規定量に調整する	－
	シリンダ・ピストンの摩耗	販売店に連絡	－
黒煙が出る	チョークレバーが閉じたまま	正しい手順で始動操作する	P22
	エアクリナーの目詰まり	清掃または交換する	－

■走行時

走行時

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照ページ
走行しない	通信状態ランプが点灯しない	アクセルレバーを全開にする	P22
	通信状態ランプが点滅している	プロポのスタートスイッチを押す	P23
	正面切替が「入」になっている	正面切替を「切」にする	P23
	刈刃状態ランプが点滅している	刈刃回転を「切」にする	P24
	電気部品のオーバーヒート	冷えるのを待って下さい	－
	電気配線の接続不良・断線	販売店に連絡	－
	各ランプが点滅・点灯している	販売店に連絡	－

5. 点検・整備

■ 草刈作業時

草刈作業時

不調の状況	原因（点検箇所）	処置	参照 ページ
刈取負荷が大きく 走行が停止する	走行速度が速い	走行速度を下げる	P17
	刈高さが低い	刈高さを高くする	P17
	刈草の草丈、草の量が多い	二度刈りをする	－
	地形にうねりがある	刈取方向を変える	－
	地形に起伏（凹凸）が多い	刈高さを高くする	P17
	刈刃の変形・摩耗	新品に交換	P31
振動が大きい	刈刃が破損している	新品に交換	P31
	刈刃ガイドバーが破損している	新品に交換	P31
	デッキが破損している	新品に交換	－
異物が飛散する	飛散防止カバーが破損している	新品に交換	－
	デッキが破損している	新品に交換	－

5. 点検・整備

5-4. 格納について

■ 日常格納

注意

- 平坦で引火の危険のない安全な場所に保管してください。
- 雨ざらしにならないように納屋に入れるかシートを掛けてください。シートを掛ける場合は、マフラーやエンジン本体が十分に冷えてから行ってください。

火災や火傷を負う恐れがあります。

重要

- 本機を1週間以上使用しない場合には、50V リチウムバッテリーを取り外してください。50V リチウムバッテリーと送信機（プロポ）は子供の手の届かないホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。また、保管温度は0～40℃としてください。

性能が損なわれる恐れがあります。

5. 点検・整備

■長期格納

シーズンの作業後は、定期点検整備を忘れずに行ってください。

重要

○ 燃料タンクやキャブレタ内から燃料を抜き取ってください。

長期間放置すると、燃料が劣化して始動不良や回転不調の原因となります

○ 12V 鉛バッテリーの端子取り外して本機をホコリの少ない乾燥した場所に保管してください。

性能が損なわれる恐れがあります。

○ 50V リチウムバッテリーの確認ボタンを押して容量表示灯を確認してください。容量表示灯が1つ以下の場合には、エンジンを始動しアクセルレバーを全開にした状態で15～20分程度の充電を行ってから取り外してください。

容量が少ない状態で本機に取り付けた状態のまま放置すると充電ができなくなる可能性があります。

